

振興会だより
よしだ

2017年(平成29年)
8月21日発行
第40号
吉田地区振興会



7月15日(土)午後5時から吉田運動公園で第34回一心祭りが開催されました。今年は久々に雨の心配もなく、スカッとした青空のもと祭りがスタートしました。逆に暑さとの戦いに

なりバザーなど火を使う部署では大変でした。しかし、観客数は昨年と同様に5,000人超と発表されるなど、大盛況のうちを終えることができました。ステージでは16の団体による発表が行われましたが、近年若さからはじける演目が多くなり、ステージ発表に対する若い年齢層の方の関心が高まってきたことが伺えます。

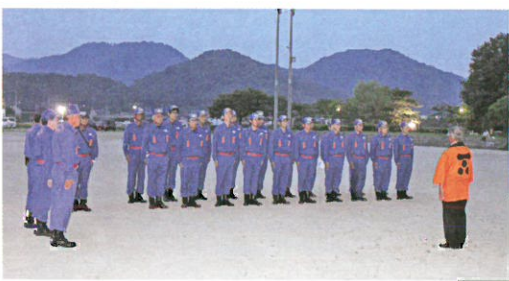
一方、今年の吉田地区振興会のバザーは、生ビールやジュースなどの飲み物と枝豆の販売が担当で熱源は有りませんでした。隣のブースの焼き鳥とうどんの余熱は所かまわずやって来て汗いっぱい。しかし、威勢の良い掛け声で生ビールを販売し、暑さを吹っ飛ばしました。祭りの締めは2,300発の仕掛け花火の連射で、疲れも吹っ飛ばしてくれました。呉市から観に来られた女性の方も、

真上で炸裂する花火の迫力にビックリされておられました。最後になりましたが、前日までの下準備、当日の会場設営と翌日の片づけに汗を出していただいた実行委員の皆さん、そしてステージ発表された皆さん、警備についていただいた消防団の皆さん、大変お世話になりました。有難うございました。

【今年の写真は、普段見ることのないところを紹介します。】



出番前のリハーサル。シナリオに従い指導受けるも、最初はぎこちない。しかし最後は武者魂。



花火による火災や事故などが無いよう警備にあたって頂いた消防団員の皆さん。実行委員長からお礼の言葉。



花火の準備をされている花火師の皆さん。今年も美しい花火を見せて頂きました。

「飲み食い広場」は大盛況

今年の吉田地区は、冷たい生ビールなどの飲み物と枝豆の販売を11名で担当しました。特に枝豆づくりは、茹で具合や塩加減を調整しサッパリ味に仕上がるように気を使いました。その結果、売れ行きも好調で、お客様から「枝豆が美味しかったよ。暑いのにご苦労さま」と声をかけていただきました。暑さも疲れも吹っ飛び、お陰様で午後8時過ぎには完売し、思わずみんなでハイタッチして歡び合いました。



この目的に向かってみんなで楽しく出来たことに感謝し、これからも絆を大切にして活動したいと誓い合いました。

五丁目下 津賀山とし子

第13回歴史探訪 「維新回天の舞台」 城下町長府の旅

6月4日(日) 6時30分という早朝出発でしたが77名という多くの方が参加され、バス2台に分乗し、長府の町を目指して吉田を出発しました。途中2回の休憩をはさみ、村田蒲鉾店に立ち寄り、そして目的地下関長府の長府観光会館に無事に到着しました。

現地では4グループに分かれ、現地ガイド4名の案内により長府史跡めぐり2時間散策コース【笑山寺→功山寺→長府毛利邸→乃木神社→忌宮神社】に出発しました。

①長府は古くから城下町として栄え、政治的にも軍事的にも重要な地であること。

②江戸時代に毛利氏一族の毛利秀元が長府に本拠地を置いたことから秀元を藩祖とし、長府藩の城下町として江戸時代14代260余年にわたり5万石の長府毛利氏の治世が続いたこと。

③高杉晋作が功山寺で決起し、その後、長府藩士を中心とした報国隊が活躍して倒幕維新へと大きく時代を動かしたこと。との説明を聞きました。現在は、静かなたたずまいの中に、土塀をはじめ、城下町の面影を随所にとどめた街並みを見ることができました。



現地ガイドの説明に聞き入る参加者の皆さん

昼食後は、東行庵記念館で高杉家に残っていた遺品、遺墨、吉田松陰の書簡、騎兵隊旗など、数百点の維新資料を見学しまし

た。今年も、ゆっくりと時間をかけて見学ができ、歴史に浸ることができました。最後になりましたが、皆様のご協力により無事歴史探訪を終えることができました。ご協力に対し、深く感謝します。(文化教育部会)



今後の行事予定 12月末まで

- 9月10日(日) 吉田地区敬老会
- 11月19日(日) グランドゴルフチャンピオン大会
- 11月中旬 パンジーの植栽
- 12月2日(土) 友愛訪問

各地区の行政区委員が決まりました

振興会の諸行事や、広報等の配布などいろいろお世話になります。よろしくお願ひします。

ブロック	行政区名	氏名		ブロック	行政区名	氏名	
1	左円1	下土居元明	柘植 雅子	12	市有常友住宅1	渡里 鈴子	
	左円2	市丸 昭義	坂元 早苗		市有常友住宅2	吉長 廣子	
2	三矢タウン	平岡 謙三	行竹ひとみ	13	二丁目	山本 敏文	井尻 繁子
3	市有郡山住宅1.2	原田 康宏			三丁目	岸野 拓雄	石藤 利恵
	市有郡山住宅3	ハラダ・バレンチン			川向1	横山 訓三	市山美保子
4	上迫1	高島 保	朝原美津枝		川向2	清水 良昭	山川 紀子
	上迫2	吉田 信子	渡辺みゆき	川手	原 勇夫	吉岡眞知子	
5	六日市1	大中 康治	岸野 紀子	14	四丁目上	宮本 宣幸	倉本 真美
	六日市2	一本木輝男	岩佐美保子		四丁目中	三宅七生治	吉野理恵子
	六日市3	立石 孝之	和田富美子		四丁目下	原田 勇治	大植 悦子
6	大賀屋1・2	芦田 大典		15	五丁目上	朝胡 美彦	中村美由紀
7	新町上	塚本 文子	花岡キヨ子		五丁目中	沖 剛志	尾都野由美子
	新町中	桑本 順子	新川 裕之		五丁目下	土居 繁子	岡本 信子
	新町下	倉本 伸男	清水 順子		高 樋	坂本 益祥	
8	西土手上	山中 敏生	山中 澄子		古 市	水本 保	
	西土手下	寺本 文照	佐々木一二三	柿 原	原田 崇		
9	太郎丸上	西川 春幸	久岡 りえ	16	大 浜	下川 正喜	岸田 里子
	太郎丸下	坂本 衛	友好真由美				
10	一丁目	平原 克己	相川 辰子	17	内 堀	春日 信次	岩田 弘子
	吉田病院					松井みどり	
	浄安寺東	佐々木公人	木和面恵美子		外 堀	竹本 宣子	上本 昭二
11	浄安寺西	渡川 満徳		四軒屋	米下 悦子		
	青迫1	吉本 春夫		18	柳 原	小川 芳史	
	青迫2	岩本 勉	岩本 幸子		19	上・下国司	岡本 郁雄
	青迫3	斎藤 博文					折紙 信子

役員体制

監査	吉田 信子	監査	津賀山 とし子	会計	相川 辰子	事務局長	隅田 克良	女性部長	梶山ミチ工	(兼) 隅田 克良	体育部長	赤川 毅	文化教育部	下土居元明	(兼) 水重 克幸	産業観光部長	小川 芳史	副部長	佐々木公人	環境福祉部長	高島 保	(兼) 今田 基良	総務部長	空席	副会長	今田 基良	副会長	水重 克幸	会長	水重 克幸
----	-------	----	---------	----	-------	------	-------	------	-------	-----------	------	------	-------	-------	-----------	--------	-------	-----	-------	--------	------	-----------	------	----	-----	-------	-----	-------	----	-------

九州北部豪雨地区の災害
ボランティアに参加して

7月20日から3泊4日で大分県日田市に行きました。当初は3月に旅行した福岡県朝倉市に行く考えでしたが宿の確保ができず、ホテルが取れた日田市に変更しました。高速バスを乗り継いで日田市に行く途中、朝倉市の杷木地区を通りましたが、大量の土砂に軒まで埋まる家々や河原には散乱する多量の流木が見える地域がありました。

日田市内は約300戸が床上浸水したそうですが、バスの窓から見る限り被害を感じるような光景はありませんでした。しかし、翌日大鶴地区の農家に派遣されましたが、その光景は3年前の広島土砂災害で見たものとそっくりで、床下まで粘土質の土砂が侵入し周囲も土砂やゴミが散乱するものでした。

作業は、小型の重機で出来ない所の土砂を人力で撤去しました。スコップを入れると少し硬くて重い土砂で、すくっては一輪車で運搬します。しかし、足

元がズブズブで、気温37度の蒸し暑さと相まって、なかなかかどりません。20分間作業しては休憩を取るパターンを繰り返すのですが、水分の摂取がどうしても多くなり3時過ぎの作業終了時には全員クタクタで口数も少なくなっていました。

翌日は、1人の犠牲者が出た小野地区に入りました。山の表面が崩落し川をせき止めたため浸水したり、流木や土砂に押し流されたりした家屋を目にしました。作業自体は前日と同じですが、人数が多く配置されたため予定より早く終了することができました。

たった2日間でしたが、出会ったボランティアの方々は大分県各地から来られていました。初日は名古屋3名、高松・広島各1名、福岡2名。2日目は、鹿児島・熊本・福岡・広島・名古屋・大分など、老若男女が、自分の予定やかかる費用をやり繰りして参加していました。作業の合間には、みんなの話を聞くことができ、面白く普段とは違った楽しさを感じることがで

きました。

また、思いがけない楽しさにも出会いました。恥ずかしながら私は、日田に約300年の歴史をもつ祇園祭りが有ることを知りませんでした。重さ約4トン・高さ10メートルのすばらしい山鉾をはじめ全部で9基の山鉾があり、巡行する姿は昔ながらの景観で非常に美しく、特に夜間は幻想的でうっとりしました。さすが江戸時代の天領だなと感じました。

近年の雨の降り方は異常です。地震・豪雨などいつ来るかわかりません。自分自身もそれらに備えるとともに、災害のボランティアに参加することで対処への新しい視点も見えてきたのかなと思いました。

翌日は佐賀の友人の家に泊まったのですが、NHK九州ローカルニュースに被災地で奮闘する消防署員の姿がありました。ヘルメットには『安芸高田』の文字が読み取れました。本当にご苦労様でした。

(吉田地区の方です。本人の「ご要望により、匿名とします」)



車窓から写した被災現場(田んぼ)の写真

編集後記

猛暑・豪雨・地震・コースがくるくる変わる台風。今の自然環境はどうなっているのでしょうか。これが災害につながるのか。これが災害につながるのか。これからひとたまりもありません。この自然災害と力比べをしても勝てるわけがありません。じゃあ、私たちはどうすれば安心・安全な生活ができるのでしょうか。この匿名投稿の現状はよそ事ではありません。

今田基良